

しろや！ 広島城

Let's know Hiroshima Castle.

No.10

2008年は広島城天守閣再建50年の節目の年です

ひろしま歴史の小耳 10

(「広島城の50年シリーズ②」)

よみがえれ！なつかしの鯉城
～広島城天守閣再建への道のり



広島城跡での記念撮影 藤原信雄氏 撮影・提供
(南東方面を写す)

戦後10年の広島城跡

この写真は、昭和30年(1955)に広島城跡で撮影されたものです。夏の日差しが照り返す石垣の上には二人の子どもが立ち、カメラマンのお父さんを見つめてにっこり笑っています。その後ろには、勢いよく伸びた雑草が茂る広島城の本丸跡が見えます。堀と石垣だけが残る城跡は、戦後10年経っても荒れていました。しかしながら、遠景には昭和29年(1954)に工事の始まった広島県庁のビル(写真右上)も見え、高度成長期に差し掛かった広島街の力強い復興の様子がうかがえます。

50年以上前にカメラマンが立った同じ位置から今の広島城跡や広島街並みを見たら、どんなに変ったか比べることができそうですね。しかし、実は現在では同じ地点から写真を撮ることは不可能となっています。なぜなら、子どもたちが立っていたところ、天守台の石垣の上には、もうすぐ50歳を迎える広島城天守閣が建っているからです！

ひろしまふっこうだいはくらんかい

広島復興大博覧会の開催決定と広島城

昭和24年(1949)制定された広島平和記念都市建設法のもと、復興に努めてきた広島市も、昭和30年ごろには高度経済成長の時代に入っていきます。そんな好況期の昭和32年(1957)2月、市制施行70周年を迎える翌33年(1958)に「広島復興大博覧会」を開催するという構想が浮上したのです。これは、広島市の復興を内外に紹介するとともに、近代科学技術の正しい認識、あるいは産業や観光事業の発展助長を目的とするものでした。博覧会の目玉のひとつとして、3月には、博覧会第3会場としての広島城天守閣の復元案が登場します。

天守閣の「復元」については、市や議会などは産業復興や観光の面から強く押し、文化財関係者らの多くは原爆で廃墟となった広島城の姿にこそ文化財としての価値があるとの反対論を唱えていました。市民からも賛否両方の意見が上がり、当時の新聞紙上にも、失ったお城への郷愁、多額の資金を伴う建設への反対、平和都

市にお城を再建することへの疑問、新しいものの建設だけでなく古いものの復活へも目が向けられるようになったことへの共感などの声が多数掲載されています。ともあれ、広島市と市長の広島城復元への思いは強く、ついに5月17日には市の幹部会で広島城天守閣の復元が決定され、同月31日に博覧会の予算が可決されると、総工費約3,600万円を投じ、急ピッチで再建が進められることになりました。

博覧会の様子をまとめた報告書『広島復興大博覧会誌』には、第3会場郷土館の目指すところが書かれています。長い文章ですが、広島城天守閣再建への意味づけがよくわかるので原文のまま引用します(下線は筆者による)。

「三五〇年前の昔のままに、広島城の天守閣を復元し、五層の美しい姿を空高く聳えさせる。天守閣の最上階に立って、復興した広島市街や周辺の山河、海峡を眺め、広島の移り変わりをしのぶとともに、今後の発展を思わせる。」

この館は天守閣の各階を郷土文化の大博物館として、門外不出の貴重な資料を展示し、これらを通して、郷土広島の歴史と自然を如実に知らせる。」

ここで注目すべきは、当初から天守閣の再建には博物館としての構想が含まれていたことです。外観を忠実に復元し、内部を博物館とすることは、実は復元申請のための条件でもありましたが、経済的な復興を追うように文化的な復興も進みつつあったといっただいでしょう。

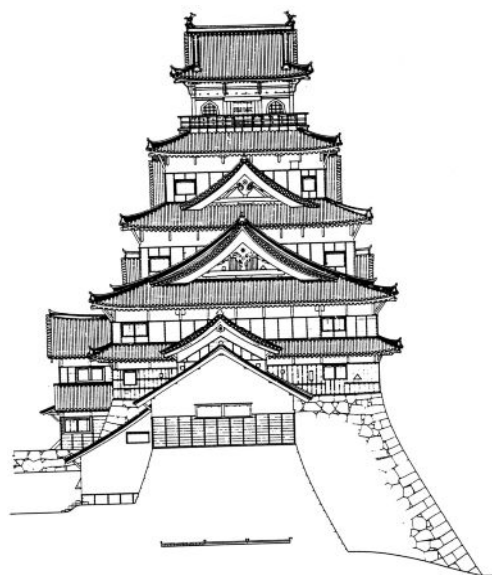
昭和のお城造り

天守閣再建が決まってから竣工まではわずか1年足らずの期間で、工期はたったの5か月という突貫工事でした。その再建にあたっては可能な限り創建当時の姿に近づけるよう努力が払われましたが、不明なことが多く、作業は困難を極めま

した。このころ、全国的にもお城の復元、ことに鉄筋コンクリートでの再建ブームが始まろうとしており、広島城はその先駆けだったともいえます。木造にするか、鉄筋コンクリートにするかとの議論もありましたが、火災に強いとの理由で採用されたようです。

鉄筋コンクリートで復元する場合、元の木造天守閣より重く、総重量は約2,900トンに及び、遺構への影響が心配されました。史跡内の石垣等には損傷を与えることができないので、天守台に負荷がかからないよう、モルタルなどを基礎部分に注入するグラウト工法で栗石を固める工事を行いました。

戦前に作成された天守閣の実測図はありましたが、細部のデザインや寸法などははっきりとはわかりません。ですから、古写真や同時代の現存建築物を参考にしました。



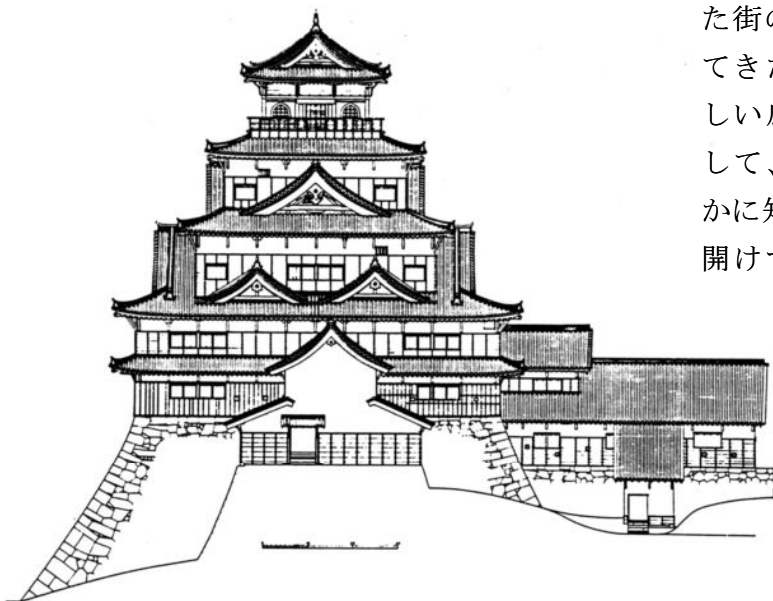
広島城天守閣東立面図(写) 原本は文化庁
戦前に作成された天守閣の実測図

また、屋根に使われていた瓦の模様や形を知る手がかりがほしくても、瓦は天守閣が爆風で倒壊したとき飛散して堀の中に埋没したりしています。参考にできる遺物を集めるため、堀に船を浮かべ、水中に潜ったりもしたそうです。新聞紙上で広島城の

の瓦を持っている人がいないか、呼びかけも行いました。シャチ瓦は地域的にも時代的にも比較的近い福山城の筋鉄御門すじがねごもんを参考に造られました。

天守閣再建なる

天守閣再建の工事は、昭和32年（1957）10月20日に始まりました。新聞紙上では



再建の経過がずいじけいさい随時掲載され、市民の関心を集めました。翌33年（1958）3月26日に竣工しましたが、完成は博覧会初日である4月1日の直前、ほんの6日前だったということになります。

ともあれ、広島城天守閣は見事に完成しました。市民のまぶたの裏に残っていた懐かしい戦前の広島にそびえたっていた街のシンボル、「鯉城」がふたたび戻ってきたのです。それは復興がかなった新しい広島のシンボルでもありました。そして、いよいよ広島復興を内外に高らかに知らしめる「広島復興大博覧会」が幕開けすることになります。

（前野）

広島城天守閣南立面図（写）

原本は文化庁

戦前に作成された天守閣の実測図。再建天守閣には天守閣の東に延びる廊下は復元されませんでした。

展示室でみつけたよ③

巨大な魚???

天守閣の第1層を歩いていると・・・巨大な魚???

これは天守閣やお寺の屋根の上によく見られる、シャチ（鯨）瓦と呼ばれる瓦の一種です。シャチというのは、実際に海にいるシャチではなく、想像上の生き物です。波を起こして雨を降らせると考えられていたので、建物を火事から守るおまじないとして、シャチの形をした瓦を屋根の上に乗せるようになったのです。

さて、第1層に展示してあるシャチ瓦は、昔の天守閣のものではなく、現在の天守閣が昭和33年（1958）に再建された時に造られたものです。元のシャチは失われてしまったので、広島城の昔の写真や、福山城の筋鉄御門のシャチ瓦を参考にして造られました。それから長年再建天守閣を守り続けましたが、平成3年（1991）に広島地方に大きな被害をもたらせた台風19号によって、一方のシャチのしっぽが折れて壊れてしまいました。

そのため、屋根から下ろされ、その後は第1層の展示室に飾られています。このシャチも造られて50年になろうとしています。その間、再建天守閣の歴史を見守り続けているのです。

（本田）

こんにちは。ぼく、シャチ瓦。
この見えてももうすぐ50歳！



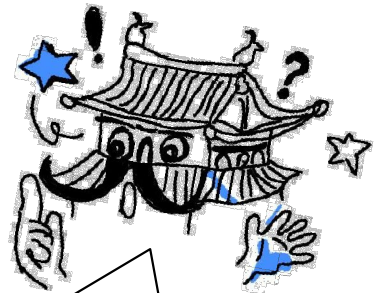
おしえて！ 広島城博士 8

Q. 今の広島城のお堀の水はどこから来るの？

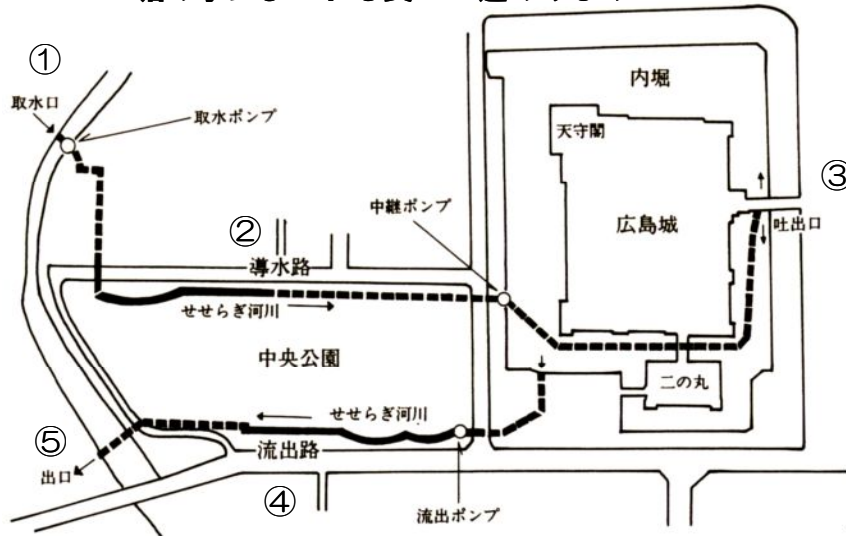
A 広島城の堀の周りを歩いてみたことがあるかの？

堀はまるで池のように見えるかもしれないが、堀の水は実は太田川（本川）からやってきて、堀の中を巡ってまた太田川へ戻っていったるんじゃ！

とは言っても、太田川と堀は結構距離が離れておる。実際にどうやって太田川の水を引き込み、どんなふう（たど）に水が流れていくんか、流れを辿ってみよう！



堀の水にまつわる長〜い道のりじゃ



- ☆まず、太田川の水が取水口からポンプで汲み上げられるところからスタートじゃ（地図①）。
- ☆汲み上げられた水はせせらぎ河川となって中央公園の北側を通って堀を目指すんじゃ。途中で地下パイプに入り中継ポンプを通して堀の中へ入って行くんじゃ（地図②）。
- ☆地下パイプを通過してきた水は、裏御門付近にある吐出口から堀の中に出て堀全体に行き渡るんじゃ。堀の中をめぐった水は堀の南西側の出口から外に出るんじゃ（地図③）。
- ☆今度は中央公園の南側のせせらぎ河川（地図④）を通過して、太田川に戻るんじゃ。川の水が引いている時は、水が出てくる様子が見られるぞ（地図⑤）。

このように、太田川の水は堀を回って再び川へ戻っておるんじゃが、どのくらい時間がかかると思うかの？ 現在はなんと3日半かかって循環しておるんじゃ。

でもこのような水の循環のおかげで、堀の中をきれいに保つこともできるし、鯉や亀、野鳥などたくさんの生き物が住むことができるんじゃ。（川橋）

しろや
！
広島城

編集・発行

財団法人広島市文化財団 広島城

730-0011

広島市中区基町21-1

電話：082-221-7512

FAX：082-221-7519

平成18年12月28日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

（12月1日～2月末日までの平日は9：00～17：00）

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人360円（280円）

小人180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日

ホームページ：<http://www.mogurin.or.jp/rijo.html>